

伝統工芸で装飾、分析機器が国際デザイン賞

～「新工芸研究会」と島津製作所の共同研究による医用・分析機器～

■京都府が事務局を務める「新工芸研究会」と株式会社島津製作所が共同研究により実施した、伝統工芸の技術を用いて機器を装飾するプロジェクトが、国際的デザイン賞「Red Dot Design Award 2026」※のブランド&コミュニケーションデザイン部門を受賞しましたので、お知らせします。

■表彰式は、令和8年11月にドイツで開催予定です。

※Red Dot Design Award：ドイツで毎年開催される世界最大級のデザイン賞。プロダクトデザイン、ブランド&コミュニケーションデザイン、デザインコンセプトの3部門で構成

1 プロジェクトの概要・経過

- ・株式会社島津製作所が令和7年3月に創立150周年を迎えることを記念し、同社と新工芸研究会が共同研究契約を締結
- ・共同研究プロジェクト「^{わざ}と^{わざ}業」において、伝統工芸の技術を用いて装飾した4種の医用・分析機器を製作
- ・機器は、令和7年6月16日～20日の間、大阪・関西万博の関西パビリオンの京都ブースで「産業」分野のトップバッターとして展示。また、令和7年12月まで、関連の伝統工芸品と合わせて株式会社島津製作所本社エントランスで展示、その後、世界18カ国57箇所にて巡回展示を実施。
- ・同プロジェクトがこの度、「Red Dot Design Award 2026」のブランド&コミュニケーションデザイン部門を受賞（表彰式は11月にドイツで開催予定）

2 プロジェクトにより製作された機器

●乳がん等検査機器

クッションカバーにピンクリボン等の柄を描いた京友禅を採用し、機器側面は唐紙や経師の技術で装飾することで、女性の幸せへの願いを表現



●回診用X線撮影装置

側板には四季の柄等をあしらった京友禅や唐紙を採用し、機器全体は西陣織、京漆器、鋤起、経師の技術で装飾することで、お誂えの魅力を表現



●ガスクロマトグラフ

フロントドアに西陣織を採用し、機器全体は西陣引箔、京漆器、七宝、鋤起、金継の技術で装飾することで、長く愛用される分析装置を表現



●液体クロマトグラフ

樹脂部品に修復技法の金継をあしらい、機器全体は西陣織、西陣引箔、京漆器、京くみひも、七宝、鋤起の技術で装飾することで、長期にわたり分析装置としての信頼感を醸成する意匠を表現



(次頁あり)

(参考：新工芸研究会とは)

- ・1981年に発足した「新工芸創作研究会」を前身とする研究会。2007年に「新工芸研究会」と名称を改め、現在に至る。
- ・「京都工芸産業のルネッサンスを」という理念のもと、京都の文化や伝統工芸技術をベースに、新たな素材や技術、感覚を融合させた新たな価値や工芸品の創造をめざして活発な研究活動を実施。
- ・伝統産業や工業デザインなどに携わる会員企業10社を中心に構成され、京都府が事務局を務める。島津製作所社員や同志社女子大学教授、京都府中小企業技術センターらがアドバイザー・ゲストとして参加し、産学公連携で展開。

【本報道発表に関するお問合せ】

商工労働観光部染織・工芸課	課長	なかの 中埜	TEL 075-414-4855
	課長補佐兼係長	大原	TEL 075-414-4856

